

1 研究主題

自分の考えをもち、学び合う子どもの育成
 ～課題解決に向けて協働する授業を目指して～(2年次)

2 研究主題設定の理由

(1) 今日的教育課題から

21世紀は、社会のあらゆる領域で新しい知識・情報・技術が人々の活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」の時代であるとともに、社会のグローバル化が一層進む時代である。それは、これまでの日本社会の価値観とは異なる、経験したことのない課題を解決していかなければならない社会への変化を意味し、新しい形態の相互依存性が高まる「多文化共生社会」の時代でもある。このような21世紀に生きる子どもたちには、自ら自己を拓き、生き抜くための「生きる力」が求められている。多様な他者、文化の中で生き抜いていくために、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と考え、協力・協働していくことが必要となる。その中で、しっかりと自分の考えをもち、伝え合うことがより重要になるものと考え、研究主題を設定した。

(2) 本校の教育目標から

本校では、学校教育目標である、～心をつなぎ明日に夢を实らせる～「心のあたたかい子」「考え実践する子」「体も心もたくましい子」を達成するために、学校経営の基本計画の下、学校教育活動全体を通して様々な具体策に取り組んでいる。

「考え実践する子」においては、令和7年度の学校経営基本計画の目指す子ども像として「確かな学力を身に付けた子ども」を設定している。その達成のために、「①『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた、学ぶ楽しさを実感できる授業、安心感のある分かる授業を実践する。」、「②学力向上のための指導力を向上する。」、「③グローバル教育への理解を深め、実践する。」等を方策として示している。学校課題研究においてもこれらの方策を具体化して、研究を進めていく。

(3) 本校の児童の実態・昨年度までの取組から

本校の学校課題の歴史を紐解くと、平成24年度に初めて「自分の考えをもち」ことがテーマに挙げられて以降、防災教育の研究指定を受けた期間を除き、平成27年度までの4年間及び令和元年度から6年間、約10年間学校課題として取り上げている。当初は国語科の「読むこと」を中心に行い、令和4年度からは全教科に広げて研究を進めてきた。

昨年度は、サブテーマを「～課題解決に向けて協働する授業を目指して～」として、どの教科でも友達の考えを聞いて、自分の考えと比べ、さらに自分の考えを深めて学び合うことのできる力を身に付けさせるということに重点を置く指導について、校内で実践研究を進めてきた。実践の中で、授業者は児童が学びたいと感じられる課題の設定を工夫した。また、各教科の『見方・考え方』を働かせる単元全体を通して構成を工夫し、適切な言語活動を位置付けるとともに、発問の工夫やICTを有効に活用するなど、他者と考えを共有する活動を意識的に授業に取り入れてきた。その結果、児童は自分なりの考えをもちことができるようになり、継続的に学習に取り組めるようになってきた。時には、自分の言葉で少人数を相手に説明する姿も見られるようになってきた。しかし、その内容はまだ不十分であることが課題として挙げられた。また、学力テストの結果からは、国語・算数・理科において、思考・判断・表現における正答率の全国比で課題が見られる学年も多い。さらに、学校評価において、教職員が感じているよりも自分の意見や考えを発表することに自信がもてないと感じている児童が多いことも明らかになった。

そこで、全教科・領域において、友達の考えを聞いて、自分の考えと比べ、さらに自分の考えを深めたり広げたりすることのよさを感じさせたいと考え、今年度も同じ研究主題を設定した。課題の設定に力を入れつつ、今年度は話し合いを通して自分の考えを伝えていけること、ふり返りで自分の学びの深まりや広がりをまとめられるようにすることにも力を入れて取り組みたい。また、昨年同様に栃木市グローバル教育の基本理念「多様な他者と協働して課題を解決できる児童生徒の育成」を念頭に具体策を講じながら、研究主題にせまりたい。

3 研究の構想

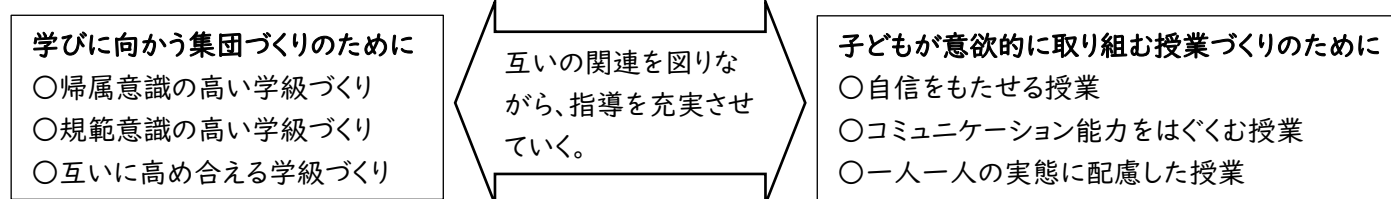
(1) 研究主題の捉え方

本研究主題「自分の考えをもち、学び合う子どもの育成」について、本校では次のように捉えて研究を進める。

「自分の考えをもち」とは、課題に対して自らの知識や経験、既習事項をもとに、各教科における見方・考え方を働かせて、自分なりの考えをもつことと考える。そのためには、「解決したい。」「解決しなければならない。」等の意欲や想い、「解決できそうだ。」との見通しが必要となる。そこで、問題解決的な学習を通して、課題設定の仕方や単元や授業の導入の仕方などを工夫しながら研究に取り組みたい。

「学び合う」とは、他者と協働しながら、課題解決に向けて粘り強く取り組むことと考える。課題解決のために、自分の考えを表現し、他者の考えも取り入れるなど、共に考えを深めたり発展させたりする授業づくりに取り組んでいきたい。そのために、まずは、学びに向かう集団づくりが必要である。また、児童一人一人が各教科における見方・考え方を働かせ、お互いの意見を交換しながら、「比較する」「分類する」「関係付ける」「多面的に考える」「感性を働かせる」等の思考を促し、課題解決に向かう授業をコーディネートしていきたい。

(2) 学業指導（「学習指導の充実に向けて」 P.34 栃木県総合教育センターより）



(3) 各教科の「見方・考え方」

（「見方・考え方」を意識した授業づくり ～資質・能力の育成に向けた授業改善～ 小学校段階 栃木県総合教育センターより）

国語	「言葉による見方・考え方」 対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。
社会	「社会的事象の見方・考え方」 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに注目して捉え（→視点）、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。（→方法）
算数	「数学的な見方・考え方」 事象を数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。
理科	「理科の見方・考え方」 見方：問題解決の過程において、自然の事物・現象をどのような視点で捉えるかということ。 自然の事物・現象について、 「エネルギー」を柱とする領域では、主として量的・関係的な視点で捉えること 「粒子」を柱とする領域では、主として質的・実体的な視点で捉えること 「生命」を柱とする領域では、主として共通性・多様性の視点で捉えること 「地球」を柱とする領域では、主として時間的・空間的な視点で捉えること ただし、これらの特徴的な視点はそれぞれ領域固有のものではなく、その強弱はあるものの、他の領域においても用いられる視点であることや、これら以外にも、理科だけでなく様々な場面で用いられる原因と結果をはじめとして、部分と全体、定性と定量などといった視点もあることに留意する必要がある。 考え方：問題解決の過程において、どのような考え方で思考していくかということ。 児童が問題解決の過程の中で用いる、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなど。
生活	「身近な生活に関わる見方・考え方」 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする。

音楽	「音楽的な見方・考え方」 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。
図工	「造形的な見方・考え方」 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。
家庭	「生活の営みに係る見方・考え方」 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。
体育	「体育の見方・考え方」 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。
外国語	「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

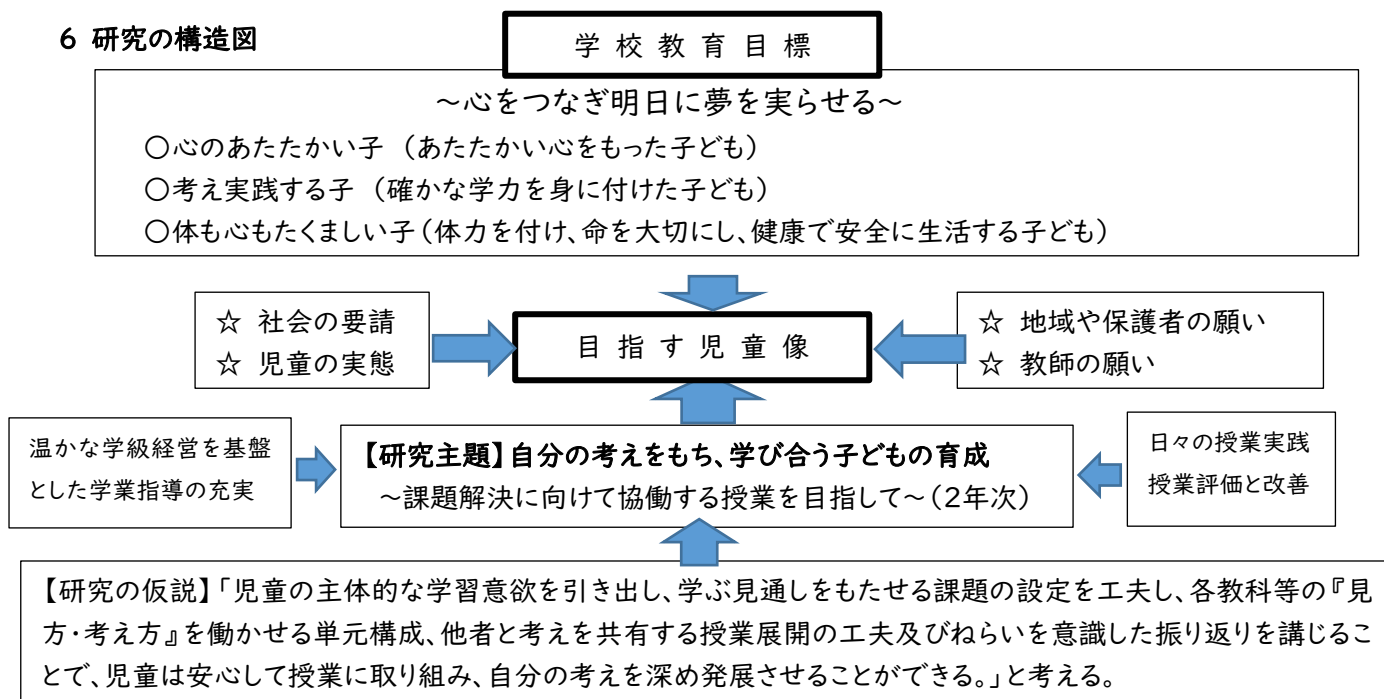
4 研究の仮説

「児童の主体的な学習意欲を引き出し、学ぶ見通しをもたせる課題の設定を工夫し、各教科等の『見方・考え方』を働かせる単元構成、他者と考えを共有する授業展開の工夫及びねらいを意識した振り返りを講じることで、児童は安心して授業に取り組み、自分の考えを深め発展させることができる。」と考える。

5 手立て

・課題の設定 ・適切な言語活動の設定 ・単元構成の工夫 ・板書の工夫 ・発問の工夫 ・ICT活用の工夫 等

6 研究の構造図

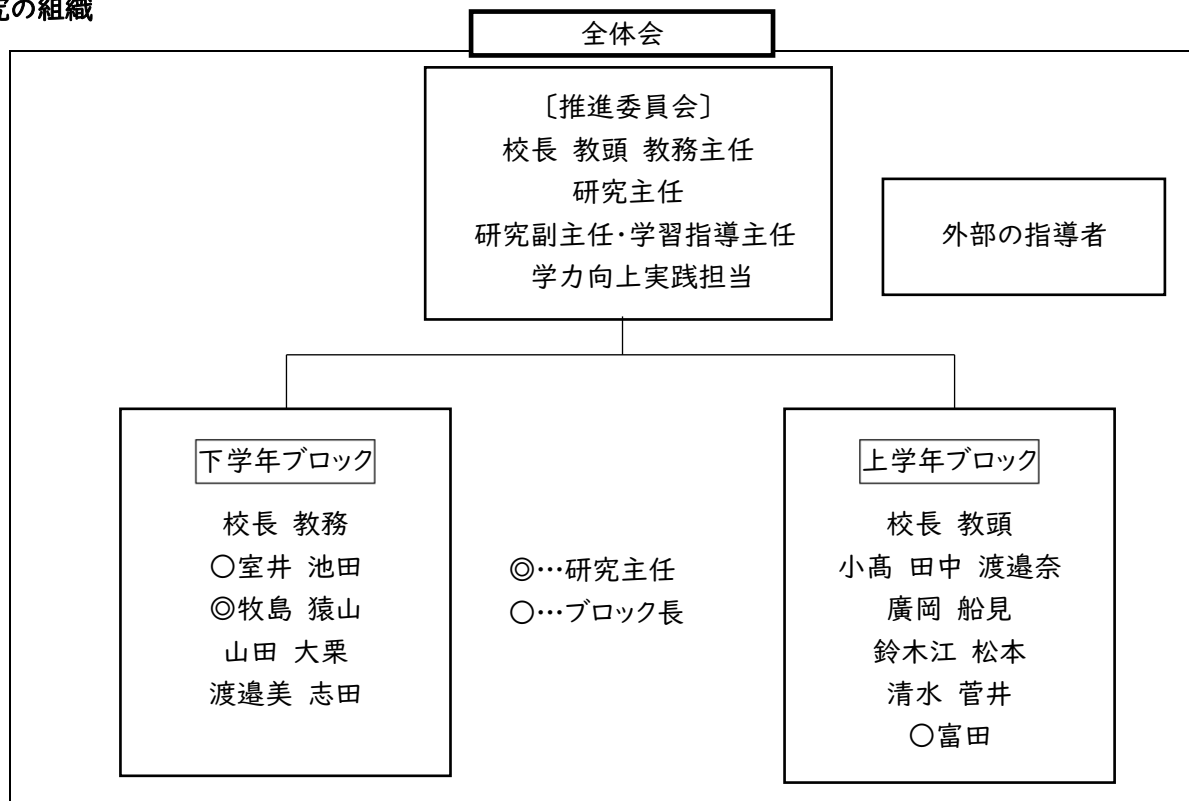


7 本年度の研究内容

(1) 研究の方法

- ① 要請訪問における教材研究や指導案検討は全員で行い、指導法の研究を進める。
(授業後の検討会は、ブロックで分かれて行う。) ※要請訪問：R7は年間1回を予定
- ② 一人一授業を行い、参観し合う。

(2) 研究の組織



8 研修及び1年間の日程

月日	内 容 (※要請訪問等の都合で、期日・内容に変更があります。)
4月 3日(木)	第 1回 学校課題研修 (研究主題確認、研究の仮説等の提案)
4月 9日(水)	第 2回 学校課題研修 (授業者決定)
4月 30日(水)	第 3回 学校課題研修 (一人一授業)
5月 7日(水)	第 4回 学校課題研修 (※内容検討中)
6月 25日(水)	第 5回 学校課題研修 (1学期の反省)
8月 1日(金)	第 6回 学校課題研修 (要請訪問に向けた指導案検討①・内容について)
8月 29日(金)	第 7回 学校課題研修 (要請訪問に向けた指導案検討②・指導案について)
9月 10日(水)	第 8回 学校課題研修
10月 1日(水)	第 9回 学校課題研修
10月 8日(水)	第10回 学校課題研修
11月 19日(水)	第11回 学校課題研修 (2学期の反省)
1月 14日(水)	第12回 学校課題研修 (学校課題反省のまとめ・次年度検討)
その後…	来年度に向けて、学校課題研究推進計画を立てていく。

※要請訪問等の都合で、
期日・内容に変更があります。